

平成25年度森林・林業白書の総括

1. 閣議決定・公表までの経緯

- (1) 平成25年度白書では、冒頭にトピックスを設け、平成25年度における森林・林業に関する特徴的な動きとして、①式年遷宮に先人たちの森林整備の成果、②富士山が世界文化遺産に登録、③林業活性化に向けた女性の取組が拡大、④中高層木造建築への道をひらく新技術が登場の4つを紹介・解説した。

特集章では「森林の多面的機能と我が国の森林整備」をテーマに、森林の多面的機能の発揮に果たす森林整備の役割について記述するとともに、我が国の森林整備を巡る歴史を振り返り、森林整備推進のために関係者が果たすべき役割など今後の課題を整理した。

- (2) 昨年9月以降、計3回の施策部会を開催してご審議いただき、本年4月の林政審議会でも諮問・答申が行われた。その後、5月30日に閣議決定・国会提出を行い、公表した。(別添1)

2. 閣議決定・公表後の動き

(1) 報道

森林・林業白書の公表等に伴い、森林の「若返り」の必要性、中高層木造建築に活用できる新技術、森林整備を国民全体で支える必要性、木材輸出、林業女子会や新規就業者数、森林整備のサイクルの重要性等の記述内容に着目した関係記事が掲載された。(別添2)

(2) 広報・普及

閣議決定本の配布、市販本の出版、説明会の開催、解説記事の投稿等に取り組んだ。(別添3)

(3) 主な評価

- 説明会でのアンケート調査等では、
- ・ 国民向け、国民視点で書かれている
 - ・ 読みやすくなるような工夫がされている
 - ・ 国民に森林の理解と正確な知識の醸成を促すもの
 - ・ 歴史を国民に示して、森林の重要性と整備の必要性の理解を得るための取組は素晴らしい
- 等の評価があった。(別添4)

(以上)

平成25年度森林・林業白書の
閣議決定・公表までの経緯

平成25年9月11日 第1回施策部会

- ・作成方針（案）の検討

11月12日 第2回施策部会

- ・平成25年度森林及び林業の動向
（構成と内容（案）、主要記述事項（案））

平成26年2月19日 第3回施策部会

- ・平成25年度森林及び林業の動向（原案）
- ・平成26年度森林及び林業施策（原案）

4月11日 林政審議会

- ・平成25年度森林及び林業の動向（案）
- ・平成26年度森林及び林業施策（案）
（諮問・答申）

5月30日 閣議決定・国会提出・公表

平成25年度森林・林業白書に関する主な報道について

紙名	日付	記事の概要
時事通信	5/30	【森林「若返り」が必要 林業白書を閣議決定】 政府は30日の閣議で、2013年度森林・林業白書を決定した。樹齢46年以上の伐採期を迎えた人工林は5割を超えており、これらの成熟した樹木を伐採し、跡地に再び造林して森林の「若返り」を図る必要性を強調。「森林資源が十分に活用されないばかりか、荒廃が危惧される森林もある」と警鐘を鳴らし、国産材の活用を促している。
共同通信	5/30	【新技術で中高層建築を 13年度森林・林業白書】 政府は30日、2013年度の森林・林業白書を閣議決定した。戦後植えたスギやヒノキが収穫期を迎え「木材を使う時代」に入ったのに、自給率（12年は27.9%）が依然低いと指摘。利用拡大に向け、東日本大震災の復興や20年東京五輪を好機とし、新技術を活かした木造中高層建築の推進も訴えた。
東京新聞	6/6	【(社説) 林業白書 百年一作に百年の計を】 - 今年の林業白書は森林への関心の高まりに焦点を当てている。林業が低迷する中、森林を守り育てるには国民の幅広く息の長い支えが求められている。 「百年一作」ともいえる森林の整備には手間と時間がかかる。これを持続させるには国産材の需要確保が重要であり、「直交集成板」の開発など、地道な努力が続けられているが、国産材の急速な復活を期待するのは難しい。国民の関心の高まりを息の長い支えに結び付けることが課題。 - 白書は地域活動やボランティアだけでなく、予算や税制、寄附などの費用負担も国民や企業に期待している。国土の三分の二に広がる豊かな森林を守り育てる百年の計を、みんなで工夫したい。
北海道新聞	5/30	【木材輸出32%増123億円 林業白書 97年以降最高 円安寄与】 政府は30日、2013年度の森林・林業白書を閣議決定した。13年の木材輸出額は前年比32%増の123億円と、1997年以降で最高となった。一方、12年の国内での国産材供給量は同1.6%増の1969万立方メートルで、木材自給率は27.9%と同1.3ポイント上昇した。
宮崎日日新聞	5/31	【五輪向け中高層建築を 林業白書 スギ活用へ提言】 政府は30日、2013年度の森林・林業白書を閣議決定した。戦後植えたスギやヒノキが収穫期を迎え「木材を使う時代」に入ったのに、自給率（12年は27.9%）が依然低いと指摘。利用拡大に向け、東日本大震災の復興や20年東京五輪を好機とし、新技術を活かした木造中高層建築の推進も訴えた。

紙名	日付	記事の概要
西日本新聞	6/1	【(社説) 若者が目を向けた今こそ 森や海の担い手】 ・農林水産省が発表した2013年度の白書では、農業白書には農業女子の、林業白書には林業女子の、それぞれの活躍が紹介されている。林業白書にはシカなどの狩猟を行う「狩りガール」も登場する。 ・林業では、「緑の雇用」事業が始まったことを理由に、03年度に新規就業者が前年度から一気に倍増した。しかし、林業白書を見ると、全国の新規就業者数はその後頭打ちの傾向にある。せっかく向いた若者の目をそらさないように農林水産業の魅力、面白さをもっと発信する必要がある。
日本農業新聞	5/31 6/13	【国産材利用促す 林業白書閣議決定】 ・政府は30日、2013年度の森林・林業白書を閣議決定した。戦後造林した人工林が本格的な利用期を迎え、木を「育てる」時代から「使う」時代が変わったと説明。「国産材を積極的に利用することが、森林を適切に整備、保全することにつながる」と強調した。木材自給率が回復傾向にあり、輸出額も過去17年で最高になったことも紹介した。 ・木板を組み合わせて高い耐震性や耐火性を持たせる「直交集成板（CLT）」といった新技術が登場したことも特集した。 【(論説) 国産材振興 植え、育て、使う循環を】 ・2013年度の森林・林業白書は、森林の多面的機能と森林整備の課題を特集した。水源かん養、温暖化防止、生物多様性など八つの機能を通じて国民の生活・経済に貢献していると強調。そのための森林整備の意義に力点を置いている。豊かな森林の維持には「植える→育てる→使う→植える」サイクルが必要であり、国産材利用の社会に転換していかなければならない。
日刊木材新聞	6/4	【森林資源の利用を強調 13年度森林・林業白書 伐って植えるサイクル構築へ】 ・政府は5月30日、13年度の森林・林業白書を閣議決定した。人工林は半世紀で蓄積量が5.4倍、10齢級以上が過半に達し、伐採、利用、再造林による高齢級人工林の「若返り」が課題になっていると指摘。林業の成長産業化に向け新たな需要の創出と安定供給体制の整備を課題として挙げた。 ・林業労働力の動向では、林業従事者数に下げ止まりの兆しがあること、若年者層が上昇していることを紹介した。 ・トピックスでは、伊勢神宮の式年遷宮、富士山の世界文化遺産登録、「林業女子会」、中高層木造建築の道を開く新技術の登場を取り上げた。

平成 25 年度森林・林業白書の広報・普及について

1. 閣議決定本の配布

閣議決定本を3,800部印刷して、国会に提出（約1,000部）するとともに、関係省庁（約120部）、都道府県（約240部）、都道府県立林業試験場（約50部）、都道府県立図書館（約110部）、市立図書館（政令市のみ）（約40部）、林業関係団体（約260部）、農業高校（約70部）、大学・短期大学（約40部）等に配布。

また、農林水産省ホームページにPDFファイルを掲載。

2. 市販本の出版

広く一般向けに周知することを目的に、印刷・出版の要望があった2者に対し出版許可を行い、市販本計7,000部を出版・配布。

- ・ 一般社団法人全国林業改良普及協会：5,000部
- ・ 一般財団法人農林統計協会：2,000部

3. 説明会の開催

農林水産白書合同説明会や大学等の主催する説明会において、合計32回、約1,500名に対して、森林・林業白書の概要を直接説明。（大学等の説明会では、参加者に対して、自由記述のアンケート調査を実施。）

（1）農林水産白書合同説明会

農政局等毎の9ブロックにおいて、農林水3白書の合同説明会を開催。都道府県、市町村、森林・林業関係者等を中心に、計約520名が参加。

北海道農政事務所(7/16)、東北農政局(7/1)、関東農政局(8/11)、北陸農政局(8/1)、東海農政局(7/9)、近畿農政局(7/22)、中国四国農政局(7/15)、九州農政局(7/24)、沖縄総合事務局(7/23)

(2) 大学

全国の16大学において、主に講義の一環として、白書説明会を計17回開催。今年度は上智大学で新規に開催。農学部等の学生を中心に計約670名が参加。

北海道大学(7/16)、岩手大学(7/31)、筑波大学(7/14)、宇都宮大学(6/26)、
東京大学(農学部:6/25、大学院新領域創成科学研究科:7/15)、
東京農業大学(7/18)、上智大学(7/22)、新潟大学(7/8)、三重大学(7/4)、
京都府立大学(6/6)、島根大学(7/7)、岡山大学(7/16)、高知大学(6/17)、
九州大学(7/25)、鹿児島大学(6/30)、琉球大学(7/23)

(3) その他

開催要望のあった5者において、白書説明会を開催。今年度は、石川県小松市、
(独)森林総研 森林農地整備センターで新規に開催。計約280名が参加。

日本政策金融公庫(6/24)
石川県小松市(7/11)
日本林政ジャーナリストの会(6/5)
岐阜県立森林文化アカデミー(7/3)
(独)森林総研 森林農地整備センター(本部:7/29、東北北海道整備局:7/31)

4. 解説記事の投稿

森林・林業関係誌5紙に、白書の解説記事を投稿。

「月刊RINYA 6月号」(林野庁広報室)
「森林と林業 6月号」(日本林業協会)
「山林 7月号」(大日本山林会)
「森林技術 7月号」(日本森林技術協会)
「森林組合 7月号」(全国森林組合連合会)

(以上)

平成25年度森林・林業白書に対する主な評価

1. 全般に関するもの

(主に内容について)

- ・以前の白書よりも視野が広がっている印象を受けた。
- ・現在の状況を新しく知ることができてとてもためになった。林業も常に進んでいることを知ることができ、これからも学んでいこうと思った。
- ・森林・林業白書が思っていたよりも、国民向け、国民視点で書かれていると思った。
- ・白書の性質上、現状から淡々と説明していくことが大事だと思うが、将来の森林管理に向けたメッセージなどもあって良いと思う。

(主に表現について)

- ・一般の人にも分かりやすいような書き方をしていると思った。
- ・目次も細かくタイトルで分けられているため探しやすい。

(その他)

- ・森林・林業白書はもっと読みづらいものだと思っていたが、トピックスなど読みやすくなるような工夫もされていて驚いた。

2. トピックスに関わるもの

- ・富士山や伊勢神宮など、専門的な知識がなくても森林についての興味が湧く内容だった。
- ・CLTや林業女子会など興味深い話も多く、自分でももう少し詳しく調べてみようと思った。将来どう森林に関わっていくか明確なものが見えてきてためになった。

3. 第Ⅰ章（特集章）に関するもの

- ・「森林整備」についてしっかりと書き込んであり、教師の立場からするとありがたい。
- ・森林の多面的機能と森林整備のところで、多面的機能発揮と森林整備の関係を特集章としてまとめられたこと、これは白書としては革命的なことと評価。このような方針の白書作りは国民に森林の理解と正確な知識のかん養を促すことになるのではないかと思う。

- ・「森林整備」について、明示的な定義は今まで直接見聞きする機会がなかったので、参考になった。
- ・過去のはげ山だった時代から、森林を整備し、過大になっている現在までの歴史を国民に示して、森林の重要性と整備の必要性の理解を得るための取組は素晴らしいと思う。
- ・「森林の多面的機能」の発揮が特集章に戻ってきたことは改めて幅広い視点からの森林管理が必要と再認識させられる方向性で、良いことだと思う。
- ・間伐の効果・重要性や森林の多面的機能などの説明が詳しく、森林の知識のない人でも分かりやすいと思った。

4. 通常章に関するもの

- ・世界的にみて森林面積が増えているのがアジアだけというのはさびしいが、全体的に変化の割合が良い方向に向かっているのは確かだと思った。
- ・林業従事者の高齢化に改善にきざしがあったことが初めて分かった。
- ・トピックスで林業女子会などの林業での女性の取組が取り上げられていたが、林業従事者の推移をみると、女性の割合が減少する一方だった点が気になった。

(以上)